

## 宇都宮市立今泉小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
見直しをもって学習に取り組める授業デザイン「今泉モデル」を活用した授業を展開する。	児童一人一人が興味関心をもつことができる導入を工夫したり目的意識をもって頑張ることができるような目標や学習内容の設定を行い、主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせたりする。また、考える時間を十分に確保することで、考えを深めたり広げたりできるようにする。授業の終末では、自らの学びを振り返る時間を確保できるようにする。	「授業の中で目標(めあて・ねらい)がしめされている」の肯定的回答は、どちらの学年も90%を超えている。5年生は、昨年度同じ質問で肯定的に回答した児童の割合が90.6%だったが、今年度の調査では97.0%と約6ポイント高まり、取組の成果が表れていると言える。今後も児童が主体的に学習に取り組むことができるような学習課題やめあてを意識した授業を展開していく。「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定的回答は、5年生は97.0%の児童が肯定的な回答をしているのに対し、4年生は82.5%とやや低い割合だった。「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的回答は4・5年生共に90%を下回っていたが、5年生は、昨年度73.7%から86.0%に10ポイント高まった。今後も授業の中でペアやグループで交流する時間を意図的に設けていくようにする。「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答は、4年生は80%を下回っているが、5年生は昨年度から20ポイント以上高まり、91.0%に達している。今後も児童自身が何をどう学んだのか、そこからどんなことが分かったのか、次の学習につなげていけるよう振り返りの時間を十分に確保する工夫をしていく。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業で自分の考えをまとめて書くことはむずかしい」の肯定的回答の割合は、6割を下回っている。5年生は、昨年度より約9ポイント下がった。 今年度重点教科として授業改善に取り組んでいる算数において、「算数の学習は好きですか。」の肯定割合はどちらの学年も80%を下回っている。また、「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている。」の肯定割合も70%と程度と低い結果だった。	自分の考えを分かりやすく書いたり、伝えたりする力を身に付ける。 算数の学習に主体的に取り組む、学ぶ喜びを味わうことができる指導を工夫する。	各教科において、自分の考えを整理して書く活動を取り入れ、考える力や表現する力を高めていく。また、友達と考えを交流したり、共有したりする時間を確保し、考えを広げたり深めたりすることができるよう指導を工夫する。個人用パソコンを活用し、考えを整理したり伝える順序を組み立てたりしやすくする。完成したものを交流するだけでなく、考えをまとめていく過程でも、ICT機器を活用して協動的に学んでいくことで、分かりやすく書いたり、自信をもって伝えたりすることができる児童の育成に努めていく。 算数の学習では、今泉モデルを活用した授業を意識し、児童一人一人が主体的に取り組むことできるめあての設定や課題の提示の仕方を工夫する。また、できた、分かった実感ももてる授業を工夫したり、習得した知識を活用して取り組むことができる課題を設定したりするよう努める。